



小動物園付近（旧展望園）から見た中心市街地

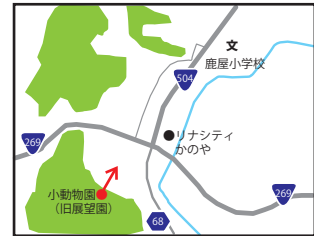
昔 昭和初期



今



現在の鹿屋中央公園の小動物園がある辺りには、かつて「展望園」がありました。左の写真は、展望園から北田・打馬方面を望んだもの。高い建物はありませんが、当時から建物が密集していたことがわかります。写真に見える縦の通りは、現在の大手町（右）と西大手町（左）です。北田交差点は、当時は十字路ではなく、T字路でした。



郷土は串良へ、農民は出水へと移住した。

この移住を指揮したのが、郷土年寄の春山八兵衛です。春山は移住実現のため、藩に甑島の窮状を訴えました。春山は串良郷へ派遣されると、地方検者と呼ばれる役

の立ち会いのもと、移住先の選定にあたります。移住先は、近く大塚山があり、手打に似た環境だった富ヶ尾に決定されました。同年3月中旬に甑島を出航した移住者たちは、手こぎ船で吹上浜に上陸し、幾日も歩き、3月26日に串良に到着。串良郷岡崎村の郷土たちが紋付袴姿で丁重に温かく迎えたという話が残っています。

その後、移住者たちは、力を合わせ原野だった富ヶ尾の地を開墾。串良郷土となり定住を果たしたのです。

移住から235年が経った今でも、富ヶ尾と手打との間では、住民同士がお互いに往来するなど、子孫による交流が続いています。

当時の薩摩藩、中でも甑島では、度重なる飢饉で厳しい生活が強いられていました。貧窮にあえいだ甑島の郷土らは、生死をかけ藩に移住を嘆願。人口過疎である大隅半島への移住政策を採用していた藩は、甑島郷土打村から串良への移住願いを受け入れます。



富ヶ尾では毎年3月に移住記念祭を行い、祖先の苦労や遺徳を伝え続けている。今年（2019年）は24日（日）に開催。

カノヤタイムトラベル

こしきしま 甑島から串良への移住

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ！